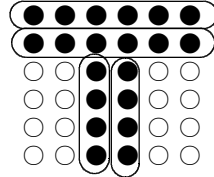
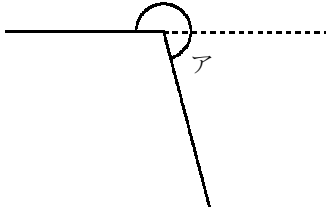
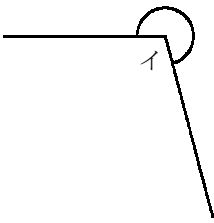


大問	中問	小問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
20点	1	(1)	①	技能			$\frac{3}{8}$	5
	(2)	②	技能			2 0 . 4 4	5	
	(3)	③	技能			1 0 5あまり3 (1 0 5 . . . 3も可)	5	
	(4)	④	技能			9 1 8 5 4	5	
10点	2	(1)	⑤	技能			七千百七十九億六千四百万 (円)	5
	(2)	⑥	知識	<div><div>○ ウのみ または、オのみ選んでいる。</div><div>○ ウ、オは書いているが、他の記号も1つ選んでいる。(イ、ウ、オ 等) ただし、他の記号を2つ以上選んだ場合は不可。(ア、イ、ウ、オ 等)</div></div>	<div>2ウ、オ</div> <div>3</div>	5		
15点	3	(1)	⑦	技能			1 1	5
	(2)	⑧	技能	<div><div>○ 記号のみウと書いているが、面積を求めている。</div><div>○ 記号はウと書いているが、面積を間違っている。</div></div>	<div>1</div> <div>1</div>	<div>(記号) ウ 5 6</div>	5	
	(3)	⑨	考え	<div><div>○ 次のものを正しくかいた場合の部分点を以下のようにする。 図 . . . 2点 言葉 . . . 1点 式 . . . 2点</div><div>・ 図と言葉は正しくかいているが、式が間違っている (式が書かれていない)。</div><div>・ 言葉と式は正しくかいているが、図が間違っている (図がかかれていない)。</div><div>・ 図と式は正しくかいているが、言葉の説明が不十分 (言葉が書かれていない)。</div></div>	<div>3</div> <div>3</div> <div>4</div>	<div><div>○ 図、言葉、式をかいて説明している。 ・ 例1 (図) (言葉) 「大きい長方形から小さい長方形をひいて求めた。」 等 (式) $(6 - 3 = 3, 9 - 4 = 5)$ $6 \times 9 - 3 \times 5 = 39$ または、$6 \times 9 = 54$ $3 \times 5 = 15$ $54 - 15 = 39$ (答え 39 m²)</div><div>・ 例2 (図) (言葉) 「2つを上図のように合わせたら、長方形ができるので、長方形の面積を求めた後、2でわって求めた。」 等 (式) $6 \times (9 + 4) \div 2 = 39$ (答え 39 m²)</div><div>・ 例3 (図) (言葉) 「横に線を入れて2つの長方形に分け、上の長方形を移動すると、1つの長方形ができるので、その長方形の面積を求めた。」 等 (式) $3 \times (9 + 4) = 39$ (答え 39 m²)</div></div>	5	

大問	中問	小問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
3	(3)		⑨	考え			・例4 (図) (言葉) 「2つを合わせた正方形からすきまの長方形をひき、2でわって求めた。」等 (式) $(3+6=9)$ $9 \times 9 = 81$ $(5-4=1)$ $3 \times 1 = 3$ $81 - 3 = 78$ $78 \div 2 = 39$ (答え 39 m ²)	
4	(1)		⑩	考え	<div>二等辺 三角形のみ</div> <hr/> <div>二等辺 三角形 (わけ) 2つの辺の長さが等しくなっているから。(半径という言葉を使っていない。)</div>	2 3	<div>二等辺 三角形 (わけ) この三角形の2つの辺は円の半径になっています。半径の長さはどれも等しいので、2つの辺の長さも等しいと言えるから二等辺三角形になります。 等</div>	5
	(2)		⑪	考え	<div>○ 3つの辺の長さがどれも等しいことは書いているが、なぜ、等しいのかが書いていない。(「正方形」という言葉が使われていない。)</div> <hr/> <div>○ 3つの辺が正方形の辺にあたることを書いているが、長さが「等しい」ことを書いていない。</div>	2 3	<div>○ 「3つの辺」「正方形」「等しい」という3つの言葉を使って書いている。 ・三角形の3つの辺(辺イウ、辺ウエ、辺エイ)は、どれも正方形の辺になっていて、長さが等しいから。 等</div>	5
5	(1)		⑫	知識			ウ	5
10	(2)		⑬	考え	○ □×7または□×7=は正しく書いている。	2	□×7=28	5
6			⑭	知識	○ 垂直、または平行のいずれかを正しく書いている。	3	○ 垂直、平行について、両方を正しく書いている。 ・垂直な直線 エ、キ ・平行な直線 ウ、カ、ク	5
7	(1)		⑮	考え	<div>○ 3組のうち1組だけ正しく結んでいる。</div> <hr/> <div>○ 3組のうち2組は正しく結んでいる。</div>	2 3	<div>○ 次の3組を正しく結んでいる。 ・ア と $6 \times 2 + 2 \times 6$ ・イ と $6 \times 6 - 3 \times 4$ ・ウ と 6×4</div>	5
【授業改善の視点】 学習指導要領では低学年から「数量関係」領域が位置付けられ、授業においては式の表現と読みの指導を一層充実させることが大切である。数量の関係を式に表したり、式から考え方を読み取ったり、言葉や図と関連付けて式を用いたりする力を伸ばすために、お互いの考えを交流させるような言語活動を取り入れた授業を工夫し、数量の関係について一層理解を深めることが必要である。								

大問	中問	小問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
7	(2)		⑮	関心	○ 次のものを正しくかいた場合の部分点を以下のようにする。 ● …… 1点 線や矢印 …… 1点 式 …… 2点 答え …… 1点 ※ ただし、●をかいていない場合は不可とする。		<div>○ ●でTの文字をかき、その図の●を数えるために必要な線や矢印をかき、その図にあった式と答えを書いている。 ・●と線をかいた例</div> <div></div> <div>式 $6 \times 2 + 4 \times 2$ <u>答え 20 (人)</u></div> <div>※ 上の例以外に、$6 \times 6 - 8 \times 2$、4×5、$6 + 6 + 4 + 4$ 等、●と線や矢印との整合性のある式であればよいものとする。</div>	5
					・●と線や矢印のみ、または●と答えのみ正しくかいている。	2		
					・●と式は正しくかいているが、線や矢印と答えをかいていない（正しくない）。	3		
					・●と線や矢印を正しくかき、それに合った答えを書いているが、式がない（式が正しくない）。	3		
					・●と線や矢印と式は正しくかいているが答えをかいていない(答えが正しくない)。	4		
					・●と式と答えは正しくかいているが、線や矢印をかいていない。	4		
8	(1)		⑰	技能			1 3 5 (°)	5
					10点	(2)		⑱
○ 右に示している十分満足できる解答状況の式はかいているが、答えが間違っている。	4	<div>○ 三角定規を複数回使って（線等の印をつけながら）角の大きさを求めている。 ・ 60° を3回と 45° を1回と 30° を1回測っている。 $60^\circ \times 3 + 45^\circ + 30^\circ = 255^\circ$ ・ 60° を2回と 90° を1回と 45° を1回測っている。 $60^\circ \times 2 + 90^\circ + 45^\circ = 255^\circ$ だから、答えは $(255)^\circ$ です。</div> <div>※ 一つの式で書いていなくても可 式の中に「°」がなくても可 説明がなくても可 線をひかなくても可 以下同様</div> <div>○ 180° に着目して考えている。</div> <div></div> <div>・（点）線をひくと、180° よりアの角の分だけ大きいことがわかるので、まず角アの大きさを求めます。 $45^\circ + 30^\circ = 75^\circ$ $180^\circ + 75^\circ = 255^\circ$ ・ $180^\circ + 45^\circ + 30^\circ = 255^\circ$ だから、答えは $(255)^\circ$ です。</div>						

大問	中問	小問	連番	観点	やや満足及び概ね満足できる解答状況	配点	十分満足できる解答状況	配点
10点	8	(2)	18	考え			<p>○ 360° に着目して考えている。</p>  <p>・ 360° よりイの角の分だけ小さいと考えると、まず角イの大きさを求めます。 60° + 45° = 105° 360° - 105° = 255°</p> <p>・ 360° - (60° + 45°) = 255° だから、答えは (255)° です。</p>	
	9	(1)	19	知識	○ いずれか一方を正しく書いている。	2	熊本市 6月 那覇市 9月	5
10点	9	(2)	20	関心	<p>【3人の気付いたことについて】</p> <p>○ 3人のうち、1人正解につき1点 ※ 2人正解で2点 3人とも正解で3点</p>		<p>○ ただしさん、みほさん、ひろしさんの3人の気付いたことすべてを正しく書き、かつ、次の観点のいずれかで、自分の考えを書いている。</p> <p>【観点】</p> <p>・ 折れ線グラフの変わり方に着目している。 ・ 2つの折れ線グラフを比較している。</p> <p>【3人の気付いたことについて】</p> <p>・ ただしさん 7月から8月 ・ みほさん 10月から11月 ・ ひろしさん 8月</p> <p>【自分の気付いたことについて】</p> <p>・ 那覇市では、気温の上がり方が一番大きいのは、5月から6月にかけてです。 ・ 1月の熊本市と那覇市の気温のちがいは、12度です。 等</p>	5
					<p>【自分の気付いたことについて】</p> <p>○ 折れ線グラフの変わり方に着目していないが、自分の気付きを書いている。</p>	1		
					<p>【自分の気付いたことについて】</p> <p>○ 2つの折れ線グラフの比較に着目していないが、自分の気付きを書いている。</p>	1		
					<p>【自分の気付いたことについて】</p> <p>○ 折れ線グラフの変わり方に着目して、自分の気付きを書いている。</p>	2		
					<p>【自分の気付いたことについて】</p> <p>○ 2つの折れ線グラフの比較に着目して、自分の気付きを書いている。</p>	2		
<p>【授業改善の視点】</p> <p>変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりする活動を通して、棒グラフとは違った折れ線グラフのよさを児童に感じ取らせるとともに、各部分の折れ線の傾きから数量の増減の様子をとらえさせていくことが必要である。また、熊本市と那覇市の2つの折れ線グラフを同時に見て、変化の様子を比較させる活動を通して、変化の特徴を読み取る力をさらに高めていく。</p>								